

公共施設のあり方検討について（R3.3.25 決定、R5.3.29 変更）

1 趣旨

公共施設等総合管理計画及び公共施設マネジメント実施方針に基づき、社会的ニーズの変化に対応したサービスの提供及び施設管理に係るコスト縮減、財政負担の平準化を図るため、平成29年度に、今後の利活用の方向性について施設ごとにあるあり方検討（公共施設評価）を実施し、長寿命化など施設方針を決定するとともに、引き続き課題の検討を要する施設については継続検討を実施した。

2 評価方法

評価は、施設単位で行い、施設の「安全性」、「必要性」、「有効性」等の観点から客観的に評価し、統廃合を含め施設そのもののあり方を検証し、今後の施設方針を決定した。

3 評価区分

（1）集約化・複合化

複数の施設を1つの施設に集約化・複合化（施設内における複数の建物の集約化を含む）し、集約化・複合化後の施設を長寿命化する。

令和2年度末までに個別施設計画を策定し、集約化・複合化に伴う改修、施設の長寿命化のための保全改修を実施していく。

（2）移譲

部局において移譲の手続きを進める。

（3）継続検討

評価の過程で明らかになった各施設の課題について引き続き検討の上、施設方針を決定し、長寿命化とした施設については、速やかに個別施設計画を策定する。

4 評価結果

別紙のとおり。

5 施設管理の今後の進め方

個別施設計画に基づく改修の実施については、全庁横断的マネジメント体制を構築するため立ち上げた公共施設等総合管理計画調整会議において毎年度協議を行い、対象施設について改修箇所を選定のうえ、計画的な改修を行うとともに、計画の進捗管理を行っていく。

<別紙>評価結果一覧

1) 集約化・複合化（施設サービスの向上及び施設規模の適正化を図る施設）

区分	施設名称	施設数
県民利用施設	青少年センター、 <u>富士川観光センター</u>	<u>2</u>
職員宿舎	東京事務所職員宿舎（野沢宿舎、下馬宿舎）	2

計 4

2) 移譲（民間移管などにより一層の施設サービスの向上を図る施設）

区分	施設名称	施設数
県民利用施設	富士川観光センター	1

計 0

3) 継続検討（継続して検討を行う施設）

区分	施設名称	施設数
県民利用施設	国際交流センター、八ヶ岳スケートセンター、男女共同参画推進センター	3

計 3

※ 富士川観光センターの評価結果は「移譲」であったが、改めて検討した結果、施設サービスの向上及び施設規模の適正化を図るため、富士川クラフトパークと集約化することとし、施設方針を「集約化」に変更した。